

2 0 1 8 年 度

事 業 報 告 書

自 2018年4月1日
至 2019年3月31日

学校法人 新潟総合学園

ごあいさつ

2018年度（平成30年度）の事業報告を行うにあたり、まずは当法人の運営に対する常日頃の関係者の皆様方のご支援に、衷心より感謝と御礼を申し上げます。

新潟医療福祉大学は開学後18年を経ましたが、この間の諸活動においては順調な運営を進めることができまして開学当初の2学部5学科から6学部13学科1研究科5専攻の構成へと発展してきております（2019年（平成31年）4月現在）。また開学から今春までに輩出した卒業・修了生数は、学部9,081名、大学院394名になりました。将来計画に沿って今後も「保健・医療・福祉・スポーツの総合大学」として「優れたQOLサポーターの育成」に取り組みます。

事業創造大学院大学は開学後13年を経ましたが、この間外国人にも門戸を開き、既に多くの留学生が学んでおります。開学から今春までに輩出した修了生数は599名（うち留学生262名）になりました。今後も世界的な視野を持った起業家や組織内事業創造を担い得る人材の育成に向けてより一層努力を続けます。

新潟食料農業大学は開学2年目を迎えました。自治体・企業との連携も順調に拡大し、社会的認知度も徐々に向上しております。人材育成とともに研究拠点としての役割も果たし産業創出の一翼を担って行きたいと考えています。

皆様方には、本事業報告書をご高覧いただきまして引き続きご支援とご協力を賜りますよう、お願い申し上げます。

2019年（令和元年）5月

学校法人新潟総合学園
総長・理事長 池田 弘

I 法人の概要

1. 所在地

〒950-3198 新潟県新潟市北区島見町1398番地

2. 法人寄附行為認可年月日

2000年（平成12年）12月21日

3. 沿革

1999年（平成11年）6月	財団法人新潟医療福祉大学設立準備財団設立許可
2000年（平成12年）12月	学校法人新潟総合学園寄附行為認可、 新潟医療福祉大学設置認可
2001年（平成13年）4月	新潟医療福祉大学開学
2004年（平成16年）11月	新潟医療福祉大学大学院設置認可
2005年（平成17年）4月	新潟医療福祉大学内に大学院医療福祉学研究科開設 （保健学専攻（修士課程）・社会福祉学専攻（修士課程）） 医療技術学部理学療法学科の入学定員の増に係る変更 医療技術学部内に健康スポーツ学科を開設
2005年（平成17年）12月	事業創造大学院大学設置認可
2006年（平成18年）4月	事業創造大学院大学開学（専門職大学院） 新潟医療福祉大学医療技術学部内に看護学科を開設 社会福祉学部社会福祉学科の入学定員の増に係る変更 および介護福祉コース開設
2007年（平成19年）4月	新潟医療福祉大学大学院医療福祉学研究科内に医療福祉学 専攻（博士後期課程）および健康科学専攻（修士課程）を開設 新潟医療福祉大学医療技術学部内に義肢装具自立支援学科 を開設 新潟医療福祉大学内に健康科学部を開設（3学部体制に改組） 新潟医療福祉大学健康科学部健康スポーツ学科の入学定員 の増に係る変更（入学定員60名⇒100名）
2010年（平成22年）4月	新潟医療福祉大学内に医療経営管理学部医療情報管理学科 を開設（4学部体制となる）
2011年（平成23年）4月	新潟医療福祉大学医療技術学部内に臨床技術学科を開設
2013年（平成25年）4月	新潟医療福祉大学健康科学部健康スポーツ学科の入学定員 の増に係る変更（入学定員100名⇒160名）
2014年（平成26年）4月	新潟医療福祉大学医療技術学部内に視機能科学科を開設 新潟医療福祉大学大学院医療福祉学研究科内に医療情報・ 経営管理学専攻（修士課程）を開設
2015年（平成27年）4月	新潟医療福祉大学健康科学部健康スポーツ学科の入学定員

		の増に係る変更（入学定員 160 名 ⇒ 200 名）
2016 年（平成 28 年）	4 月	新潟医療福祉大学医療技術学部理学療法学科の入学定員 の増に係る変更（入学定員 80 名 ⇒ 120 名）
2017 年（平成 29 年）	4 月	新潟医療福祉大学医療技術学部内に救急救命学科を開設
2018 年（平成 30 年）	4 月	新潟食料農業大学（食料産業学部食料産業学科）開学 新潟医療福祉大学医療技術学部診療放射線学科、看護学部看護 学科及びリハビリテーション学部（理学療法学科、作業療法学 科、言語聴覚学科、義肢装具自立支援学科）開設 （医療技術学部理学療法学科、同学部作業療法学科、同学部 言語聴覚学科、同学部義肢装具自立支援学科および健康科学部 看護学科は学生募集停止） 新潟医療福祉大学医療技術学部臨床技術学科の入学定員 の増に係る変更（入学定員 80 名 ⇒ 100 名）

4. 設置する学校の名称および所在地（2018 年 5 月 1 日現在）

1) 設置大学

(1) 新潟医療福祉大学

大学院医療福祉学研究科	保健学専攻（修士課程） 社会福祉学専攻（修士課程） 健康科学専攻（修士課程） 医療情報・経営管理学専攻（修士課程） 医療福祉学専攻（博士後期課程）
リハビリテーション学部	理学療法学科 作業療法学科 言語聴覚学科 義肢装具自立支援学科
医療技術学部	理学療法学科 作業療法学科 言語聴覚学科 義肢装具自立支援学科 臨床技術学科 視機能科学科 救急救命学科 診療放射線学科
健康科学部	健康栄養学科 健康スポーツ学科 看護学科

理事	新潟食料農業大学学長	渡辺 好明	1号	学 長
理事		岡田 幸也	3号	学識経験者
理事	常務理事法人事務局長	佐久間俊也	3号	学識経験者
理事		高橋 道映	3号	学識経験者
監事		平 要志和		理事会選任
監事		村山 雄亮		理事会選任

6. 新潟医療福祉大学の定員・学生数の状況（2018年5月1日現在）

（学部）

学科等	入学 定員	収容 定員	1年生	2年生	3年生	4年生	合計
リハビリテーション学部*							
理学療法学科	120	120	136	—	—	—	136
作業療法学科	50	50	50	—	—	—	50
言語聴覚学科	40	40	42	—	—	—	42
義肢装具自立支援学科	40	40	42	—	—	—	42
医療技術学部							
理学療法学科*	—	320	—	130	132	97	359
作業療法学科	—	120	—	42	46	44	132
言語聴覚学科	—	120	—	42	40	48	130
義肢装具自立支援学科	—	120	—	40	39	46	125
臨床技術学科*	100	340	94	101	98	113	406
視機能科学科	50	200	50	51	49	58	208
救急救命学科*	55	110	55	54	—	—	109
診療放射線学科*	90	90	90	—	—	—	90
健康科学部							
健康栄養学科	40	160	43	46	43	44	176
健康スポーツ学科*	200	810	209	218	212	230	869
看護学科*	—	260	—	84	96	88	268
看護学部*							
看護学科*	107	107	107	—	—	—	107
社会福祉学部							
社会福祉学科*	120	490	135	133	117	144	529
医療経営管理学部							
医療情報管理学科*	80	330	88	86	101	102	377
合 計	1,092	3,827	1,141	1,027	973	1,013	4,155

※収容定員については3年次編入定員を含んでいる。すなわち健康科学部健康スポーツ学科5名、同学部看護学科10名、社会福祉学部社会福祉学科5名、医療経営管理学部医療情報管理学科5名分を含んでいる（まだ受け入れ年度に達していない看護学部看護学科3年次編入3名は除いている）。また収容定員の計算にあたっては、医療技術学部理学療法学科（2016年4月1日入学定員増80名⇒120名）、医療技術学部救急救命学科（2017年4月1日設置）、医療技術学部臨床技術学科（2018年4月1日入学定員増80名⇒100名）、医療技術学部診療放射線学科（2018年4月1日設置）、リハビリテーション学部（2018年4月1日設置）および看護学部（2018年4月1日設置）について学年進行を考慮している。

（大学院医療福祉学研究科）

専攻名	入学定員	収容定員	1年生	2年生	3年生	合計
修士課程 保健学専攻*	21	39	21	22		43
健康科学専攻	10	20	7	16		23
社会福祉学専攻*	5	13	2	5		7
医療情報・経営管理 学専攻	4	8	4	3		7
博士後期課程 医療福祉学専攻*	10	26	12	10	25	47
合計	50	106	46	56	25	127

※収容定員の計算にあたっては、次の学年進行を考慮している。保健学専攻の入学定員変更（2018年4月1日より18名⇒21名）、社会福祉学専攻の入学定員変更（2018年4月1日より8名⇒5名）および医療福祉学専攻の入学定員変更（2016年4月1日より3名⇒8名 2018年4月1日より8名⇒10名）。

<参考> 新潟医療福祉大学の定員・学生数の状況（2019年5月1日現在）

学科等	入学定員	収容定員	1年生	2年生	3年生	4年生	合計
リハビリテーション学部*							
理学療法学科	120	240	135	134	—	—	269
作業療法学科	50	100	49	46	—	—	95
言語聴覚学科	40	80	43	42	—	—	85
義肢装具自立支援学科	40	80	39	40	—	—	79
医療技術学部							
理学療法学科*	—	240	—	—	128	133	261
作業療法学科	—	80	—	—	38	48	86
言語聴覚学科	—	80	—	—	40	41	81
義肢装具自立支援学科	—	80	—	—	40	41	81
臨床技術学科*	100	360	100	92	99	102	393
視機能科学科	50	200	48	48	47	49	192
救急救命学科*	55	165	55	53	53	—	161

診療放射線学科*	90	180	90	89	—	—	179
健康科学部							
健康栄養学科	40	160	43	41	45	43	172
健康スポーツ学科*	200	810	221	208	218	214	861
看護学科*	—	180	—	—	86	98	184
看護学部*							
看護学科*	107	214	107	106	—	—	213
社会福祉学部							
社会福祉学科*	120	490	130	131	132	117	510
医療経営管理学部							
医療情報管理学科*	80	330	89	84	91	106	370
合 計	1,092	4069	1,149	1,114	1,017	992	4272

※収容定員については3年次編入定員を含んでいる。すなわち健康科学部健康スポーツ学科5名、同学部看護学科10名、社会福祉学部社会福祉学科5名、医療経営管理学部医療情報管理学科5名分を含んでいる（まだ受け入れ年度に達していない看護学部看護学科3年次編入3名は除いている）。また収容定員の計算にあたっては、医療技術学部理学療法学科（2016年4月1日入学定員増80名⇒120名）、医療技術学部救急救命学科（2017年4月1日設置）、医療技術学部臨床技術学科（2018年4月1日入学定員増80名⇒100名）、医療技術学部診療放射線学科（2018年4月1日設置）、リハビリテーション学部（2018年4月1日設置）および看護学部（2018年4月1日設置）について学年進行を考慮している。

（大学院医療福祉学研究科）

専攻名	入学定員	収容定員	1年生	2年生	3年生	合計
修士課程 保健学専攻*	21	42	25	26		51
健康科学専攻	10	20	15	10		25
社会福祉学専攻*	5	10	5	2		7
医療情報・経営管理 学専攻	4	8	4	4		8
博士後期課程 医療福祉学専攻*	10	28	12	12	24	48
合 計	50	108	61	54	24	139

※収容定員の計算にあたっては、次の学年進行を考慮している。保健学専攻の入学定員変更（2018年4月1日より18名⇒21名）、社会福祉学専攻の入学定員変更（2018年4月1日より8名⇒5名）および医療福祉学専攻の入学定員変更（2016年4月1日より3名⇒8名 2018年4月1日より8名⇒10名）。

7. 事業創造大学院大学事業創造研究科の定員・学生数の状況（2018年5月1日現在）

専攻名	入学定員	収容定員	1年生	2年生	合計	備 考
事業創造専攻	80	160	85	88	173	他に科目等履修生2名

（備考）演習Ⅰ修得前の在学者（長期履修生含む）は1年生に含み、演習Ⅰ修得後の留年者、長期履修生等は2年生に含む。

<参考>事業創造大学院大学事業創造研究科の定員・学生数の状況（2019年5月1日現在）

専攻名	入学定員	収容定員	1年生	2年生	合計	備考
事業創造専攻	80	160	83	87	170	他に科目等履修生14名

（備考）演習Ⅰ修得前の在学者（長期履修生含む）は1年生に含み、演習Ⅰ修得後の留年者、長期履修生等は2年生に含む。

8.新潟食料農業大学の定員・学生数の状況（2018年5月1日現在）

（学部）

学科等	入学定員	収容定員	1年生	2年生	3年生	4年生	合計
食料産業学部							
食料産業学科*	180	180	99	—	—	—	99
合計	180	180	99	—	—	—	99

※収容定員の計算にあたっては、学年進行を考慮している。

<参考>新潟食料農業大学の定員・学生数の状況（2019年5月1日現在）

（学部）

学科等	入学定員	収容定員	1年生	2年生	3年生	4年生	合計
食料産業学部							
食料産業学科*	180	360	149	95	—	—	244
合計	180	360	149	95	—	—	244

※収容定員の計算にあたっては、学年進行を考慮している。

9. 2018年度実施の入学選考試験概要

1) 新潟医療福祉大学 2019年度入学選考試験 入学志願者、合格者、入学者の状況

選考方法	募集人員	志願者数	合格者数	入学者数
アドミッション・オフィス(AO)方式による入学選考試験	180	490	231	229
スポーツ推薦入学選考試験(前期・後期)	67	109	108	107
指定校推薦入学選考試験	165	220	220	220
公募推薦入学選考試験(前期・後期)	100	189	116	107
特別推薦入学選考試験	74	212	97	57
大学入試センター試験利用入学選考試験(前期・後期)	103	1,068	387	71
一般入学選考試験(前期・後期)	383	1,902	725	358
社会人等特別入学選考試験	若干名	0	0	0
合計	1,092	4,190	1,884	1,149

※合格者数は、一般入学選考試験を除き第1志願合格者数のみ。また補欠からの繰上げ合格者は含まない。一般

入学選考試験では、「第2志願制度」を設けているため合格者数には第2志願合格者も含む。

※公募推薦入学選考試験（前期）および特別推薦入学選考試験は、両試験区分を併願志願することを可能とする制度を設けているため、各試験区分の合格者数には両試験区分を受験し、両試験区分ともに合格した合格者も含む。

2) 事業創造大学院大学 2018・2019年度入学選考試験 入学志願者、合格者、入学者の状況

選考方法	募集人員	志願者数	合格者数	入学者数
2017年度秋学期 一般・推薦入学選考試験	約20	32	31	24
2018年度春学期 一般・推薦入学選考試験	約60	67	65	61

※募集上「秋学期 約20名」「春学期 約60名」とし、秋学期と春学期に募集人員が若干変動する年があるが、入学定員は80名である。

3) 新潟食料農業大学 2019年度入学選考試験 入学志願者、合格者、入学者の状況

選考方法	募集人員	志願者数	合格者数	入学者数
アドミッション・ワイズ(AO)方式による入学選考試験(前期・後期)	20	10	10	10
公募推薦入学選考試験(前期・後期)	20	3	3	3
専門・総合推薦入学選考試験(前期・後期)	15	2	2	2
指定校推薦入学選考試験(前期・後期)	20	45	45	45
スポーツ推薦入学選考試験(前期・後期)	10	0	0	0
スポーツ自己推薦入学選考試験(A~D日程)	若干名	0	0	0
自己推薦入学選考試験	5	5	3	3
大学入試センター試験利用入学選考試験(前期・中期・後期)	20	102	95	10
一般入学選考試験(前期・中期・後期)	60	117	101	39
社会人入学選考試験	若干名	1	1	0
外国人留学生入学選考試験(A~E日程)	10	49	47	37
合計	180	334	307	149

10. 教職員の概要 (2018年5月1日現在)

1) 新潟医療福祉大学教員

学部等	学長	教授	准教授	講師	助教	助手	専任教員計
リハビリテーション学部	(1)	6	4	3	6	0	19
医療技術学部		36	12	21	23	8	100
健康科学部		23	17	17	15	10	82
看護学部		4	0	3	1	3	11
社会福祉学部		10	6	2	6	3	27
医療経営管理学部		8	2	1	7	0	18
合計	(1)	87	41	47	58	24	257

※学長を教授にカウントすると教授88名、専任教員合計248名。

2) 事業創造大学院大学教員

研究科	学長	教授	准教授	講師	助教	助手	専任教員計
事業創造研究科	(1)	11	3	1	0	0	15

※学長を教授にカウントすると教授 12 名、専任教員合計 16 名。

3) 新潟食料農業大学教員

学部等	学長	教授	准教授	講師	助教	助手	専任教員計
食料産業学部	(1)	9	1	6	2	0	18

※学長を教授にカウントすると教授 10 名、専任教員合計 19 名。

4) 法人職員

	専任	常勤嘱託等	合計
職員数	123	0	123

<参考> 法人全体の教職員数（2019年5月1日現在）

1) 教員

大学名	学長	教授	准教授	講師	助教	助手	専任教員計
新潟医療福祉大学	(1)	87	46	53	69	21	276
事業創造大学院大学	(1)	13	2	1	0	0	16
新潟食料農業大学	(1)	13	2	8	2	0	25
合計	(3)	113	50	62	71	21	317

※学長を教授にカウントすると教授 116 名、専任教員合計 320 名。

2) 法人職員

	専任	常勤嘱託等	合計
職員数	141	0	141

II 事業の概要

1. 新潟医療福祉大学

本学は2001年の開学以来、建学の精神である「優れたQOLサポーターの育成」を基本理念とし、一人ひとりのQOLをチームワークで支えることのできる人材を輩出してきました。現在は、6学部13学科と大学院を擁する総合大学となり、「資格取得に強い大学」、「就職に強い大学」、「連携教育に力を入れる大学」、「研究活動が活発な大学」といったブランドが定着しつつあります。

2018年度は、「将来計画長期目標（2010－2020年度）」の「第三期中期目標・中期計画（2018－2020年度）」における初年度となりましたが、策定したアクションプランに基づき様々な取り組みが実行されました。

1) 教育・研究活動

(1) 国家試験・資格試験等対策の実施：目標合格率100%

国家試験においては、理学療法士、視能訓練士、助産師、介護福祉士の4資格で合格率100%を達成し、総じて良好な結果となりました。しかし、各種資格試験においては一部の資格で昨年度実績を下回るものがあり今後の対策に課題が残りました。これからも全資格における合格率100%を目指し、指導対策の一層の強化に取り組みます。

■ 2018年度国家試験等結果

国家試験等	本学				全国	
	受験者数	合格者数	合格率	(前年比)	合格率	(前年比)
理学療法士※	92	92	100.0%	(+0.2%)	85.8%	(+4.4%)
作業療法士※	34	31	91.2%	(-3.7%)	71.3%	(-12.6%)
言語聴覚士※	39	35	89.7%	(-5.2%)	68.9%	(-10.4%)
義肢装具士※	39	38	97.4%	(+8.8%)	89.4%	(+4.1%)
臨床検査技師※	97	75	77.3%	(+0.9%)	75.2%	(-4.1%)
臨床工学技士※	98	83	84.7%	(-2.4%)	77.5%	(+3.8%)
視能訓練士※	55	55	100.0%	(±0.0%)	98.2%	(+0.5%)
管理栄養士※	44	41	93.2%	(-1.9%)	60.4%	(-0.4%)
アスレティックトレーナー	10	1	10.0%	(-1.1%)	非公表	
健康運動指導士	23	14	60.9%	(-20.4%)	81.3%	(+16.0%)
看護師※	82	80	97.6%	(-2.4%)	89.3%	(-1.7%)
保健師※	47	38	80.9%	(+4.2%)	81.8%	(+0.4%)
助産師※	4	4	100.0%	(±0.0%)	99.6%	(+0.9%)
社会福祉士※	126	81	64.3%	(-3.7%)	29.9%	(-0.3%)
精神保健福祉士※	14	13	92.9%	(-7.1%)	62.7%	(-0.2%)

介護福祉士*	33	33	100.0% (±0.0%)	73.7% (+2.9%)
診療情報管理士	35	21	60.0% (-26.8%)	52.4% (-13.9%)
診療報酬請求事務能力認定試験	30	18	60.0% (+15.9%)	28.4% (-2.5%)

(補足) ※印の資格は国家試験。それ以外は民間団体の認定資格で概要は以下のとおり。

(A)アスレティックトレーナー (Athletic Trainer) は『公益財団法人日本体育協会』公認スポーツ指導者制度に位置づけられ公認スポーツドクターおよび公認コーチと緊密に連携を図り選手の健康管理、リハビリテーション、フィジカルトレーニングおよびコンディショニング等を行う専門職です。『公益財団法人日本体育協会』が認定する専門資格です。

(B)健康運動指導士は保健医療関係者と連携しつつ安全で効果的な運動を実施するための運動プログラム作成および実践指導計画の調整等を行う役割を担う専門職です。『公益財団法人健康・体力づくり事業財団』が認定する専門資格です。

(C)診療情報管理士 (Health Information Manager) は電子カルテを始めとする各種診療情報を管理し医療の質の向上、安全管理および病院経営管理等に寄与する専門職です。『四病院団体協議会 (日本病院会, 全日本病院協会, 日本医療法人協会, 日本精神科病院協会) および医療研修推進財団』が認定する専門資格です。

(D)診療報酬請求事務能力認定試験は診療報酬請求事務に従事する者の資質の向上のための専門知識と技能を『公益財団法人日本医療保険事務協会』が認定する資格試験です。

(2) 就職指導対策の実施：目標就職率100%

2018年度は、11学科中9学科が就職率100%を達成しました。また全体の就職率は99.6%となり、過去最高の就職率となりました。

重点対策事業として、「福祉施設求人説明会(5月)」、「医療福祉施設求人説明会(8月)」、「義肢装具自立支援学科求人説明会(9月)」、「業界・職種研究会(12月)」、「学内企業説明会(3月)」、等を開催し、学科の特色および学生ニーズに対応した就職機会を積極的に提供しました。

また、昨年度、新潟県内の医療機関と福祉施設を対象に実施した「就職定着度調査」においては、今年度の調査対象を過去3年間に本学卒業生の採用実績がある全国941の医療機関・福祉施設および一般企業に拡大し調査を行いました。その結果、本学卒業生の3年間の離職率は27.1%であり、全国大卒の平均離職率32.2%を下回ることが分かりました。特に本学卒業生の医療、福祉分野における離職率は24.4%と全国の医療、福祉分野の平均離職率37.8%を大きく下回っていることから、本学の卒業生は医療、福祉業界の戦力として活躍している割合が大きいことが分かりました。

今後は、「就職定着度調査」から得られた結果を教育および就職指導に反映させるとともに、就職・採用活動ルールの見直しを行い、通年採用など就職環境が大きく変動していく中でも学生全員が希望通りの就職ができるように、ガイダンスやセミナーなど早期の動機付けときめ細かな学生相談を通じて多面的に就職活動を支援していきます。

■ 2018年度就職結果（2019年5月1日現在）

学 科	卒業生数	求職登録者数	就職者数	就職率	進 学	国家試験等 受験準備	その他
理 学 療 法 学 科	92	83	83	100%	9	0	0
作 業 療 法 学 科	38	32	32	100%	1	5	0
言 語 聴 覚 学 科	46	38	38	100%	4	4	0
義肢装具自立支援学科	44	41	41	100%	2	0	1
臨 床 技 術 学 科	106	96	93	96.9%	2	8	3
視 機 能 科 学 科	57	56	56	100%	1	0	0
健 康 栄 養 学 科	44	44	44	100%	0	0	0
健 康 スポ ーツ学 科	225	198	198	100%	20	2	5
看 護 学 科	85	82	82	100%	1	1	1
社 会 福 祉 学 科	141	138	138	100%	0	1	2
医 療 情 報 管 理 学 科	97	92	91	98.9%	1	5	0
合 計	975	900	896	99.6%	41	26	12

(3) 退学抑止重点対策の実施

退学抑止においては、三位一体※による全学的な対策を実施するとともに、学科と事務局の連携による個別チェックとフォロー体制の強化に取り組みました。また、NUHW セーフティネットのロゴ(右図)を作成し、学生がいつでもどこでも相談しやすい環境づくりを行ったことや、臨床心理士による学生相談(週3日実施)体制を確立したこと、学習支援センターによるサポート体制をより充実しました。加えて、これまでの退学要因や傾向を分析し、具体的な対策を実施した結果、2018年度の退学率は1.47%となり、2014年度から退学率1%台の低い水準を維持することができています。



※三位一体とは、総務会、学科・関連委員会および事務局が連携しながら

【NUHW セーフティネットのロゴ】

課題の解決にあたる取り組みです。

(4) 図書館・学習支援センターによる支援

図書館のラーニングコモンズ内にある学習支援センターでは、専門科目の基礎となる数学・生物・化学・物理など学生が苦手とする科目の復習や、高等学校で未履修であった科目のサポートのほか、レポートの書き方や論作文の指導などを行っています。センターには各科目を担当する講師が常駐し、個別に相談を受けることができます。また年間を通じて躓きやすい科目と連動したセミナーや、コミュニケーションの醸成を目的としたワークショップ(囲碁・将棋)を開催しています。これらセンターでの人的支援と図書・雑誌をはじめとした学術的な資料群の提供、またグループ学習室や個人のブース席の整備などにより、入学直後の学生生活への適用、卒業論文の作成、国家試験対策まで学生の「学び」の総合的な支援を行っています。

2018年度は図書館と学習支援センターが一体化を深め、以下のような取り組みを実施しました。結果、入館者数は対前年比で105%、文献利用数は105%、学習支援個別サポート相談件数は223%と増加しました。またセンター主催のセミナーは53回開催しました。

- ①国家試験等対策向けに年末・年始の開館（9:00～17:00）と国家試験等対策シーズンの日曜祝日の開館時間（9:00～17:00 → 9:00～19:30）。年間306日の開館
- ②学科特性や地域活動、ブランディング事業に関連した網羅性・希少性のある特色コレクションの構築。「がん闘病記」、「新潟水俣病」、「パラスポーツ」
- ③オープンキャンパスでのイベント企画「スタンプラリー」の実施
- ④雑誌「Nature」関連誌の電子ジャーナル提供
- ⑤雑誌「医学書院」提供の電子ジャーナル（医書j p）の充実

【セミナー開催例】

セミナー名称	対象学科・学年	参加者数（人）
語彙読解力検定 3級対策講座	1年生全学科	121
神経科学テスト前学習セミナー	2年生（PT/OT/ST）	169
3年生のための統計学の基礎合同勉強会	3年生（OT/ST/NR）	104
新入生 入学前科目別セミナー【生物】	入学予定者	248



【パラスポコーナー】



【がん闘病記コーナー】



【新潟水俣病コーナー】



【ラーニングcommonsでのセミナーの様子】



【図書館キャラクター“ブックワーム”】

(5) 専門職種連携教育の更なる充実

本学では開学時より学部・学科の枠を越えて学ぶ「連携教育」に力を入れ、学年進行に応じて「チーム医療・チームアプローチ」の実践に資する科目を開講しています。連携教育の集大成となる「連携総合ゼミ（4年次開講）」では、具体的な設定事例について、本学の学生その他、新潟薬科大学、日本歯科大学新潟短期大学および新潟リハビリテーション大学、海外からはアンヘレス大学（フィリピン）、サント・トーマス大学（フィリピン）、陽明大学（台湾）、中山医科大学（台湾）の学生が参加して専門職種間連携教育に関する活発な議論などが行われました。

一例として、テーマ「脳性まひ（疑い）児と育児不安を持つ母への成長と支援」においては、設定された対象児の症例をもとに、本学理学療法学科・言語聴覚学科・視機能科学科・看護学科の学生が新潟リハビリテーション大学、日本歯科大学新潟短期大学の学生とともに、それぞれが目指している専門職の立場から、身体機能・感染防御・家族の各々についての支援方策を導き出し、最終日にその成果を発表しました。



【連携総合ゼミ】

(6) 国際交流活動の推進

本学では、9カ国15大学・3医療機関と国際交流協定などを締結し、学生をはじめ、教員が国際的な視野を身に付けるために多様な国際交流活動を実施しています。学生に対しては、全ての学科で希望者に対する海外研修プログラムの提供と研修費用に対する助成を行いました。教員に対しては、研究・教育交流を主目的とする国際交流事業に対して費用を助成し、活動を支援しました。

2018年度は、新たにマヒドン大学（タイ）、フィリピン脳性麻痺のための法人（PCPI）（フィリピン）と協定を締結しました。

また、学生の海外研修や留学への興味・関心を高めるための導入プログラムとして、「コーヒーハウス※」の定期開催やNSGグループが所有する田ノ浦研修センターや妙高園で宿泊型の「English Camp※」を9月と3月に実施しました。

以上の活動の結果、2018年度の海外研修等参加学生数は142名（前年度比110.9%）となりました。

※「コーヒーハウス」は、昼食をとりながら複数言語で会話をしたり、海外研修参加者が研修報告を英語で行うイベントです。

※「English Camp」は、国内で海外体験をシミュレートできる環境を提供するイベントです。



【English Campで異文化コミュニケーションを学ぶ】



【全学科対象の海外研修（マレーシア）】

(7) 研究に関する取組み

①プロジェクト研究センター

本学では各種研究センターが設置されており先端的な各種研究テーマへの取組みが行われています。

2018年度は、以下9の研究センターが設置されています。

- ・「アクアヘルス推進プロジェクト研究センター」
- ・「言語発達支援センター」
- ・「筋骨格系機能プロジェクト研究センター」
- ・「ロコモティブ症候群予防研究センター」
- ・「シティズンシップ教育実践研究センター」
- ・「スポーツカウンセリング研究センター」
- ・「アスリートサポート研究センター」
- ・「小児リハビリテーション研究センター」
- ・「身体教育研究センター」

②外部競争資金の獲得

2018年度中に申請した2019年度科学研究費助成事業は、資金受入件数が89件、受入金額156,650千円（前年度75件、受入金額137,410千円）で過去最高金額となり、全国の4年制私立大学で第59位となりました。また若手研究者比率が47.5%（前年度47.3%）で全国の4年制大学で第2位でした。

また、受託研究・寄付金等外部資金受入れは総件数で23件、総額約42,655千円の実績（前年度22件、総額約19,769千円）となりました。内訳としては民間企業、地方公共団体、福祉行政機関および食品産業研究機関等からの受入れであり、本学の教育研究分野の裾野の広がりに伴い外部機関等との多様な連携が実現しています。

③外部機関との産官学連携等

地域連携として、新潟市北区、五泉市、新潟県社会福祉協議会、新潟市社会福祉協議会と包括連携協定を締結し、地域連携に取り組みました。また新潟市北区小・中学校との連携活動、各種講座開催等を行いました。

④文部科学省事業

2017年度に選定された、私立大学研究ブランディング事業（タイプA：社会展開型）の「リハビリテーション科学とスポーツ科学の融合による先端的な研究拠点－Sports & Health for All in Niigata－」（補助額3年総額約1億5千万円）では、2018年度においても、本事業の目的である地域住民からアスリートまで全ての人が安全にスポーツを楽しみ、幸せな生涯を過ごす新潟県”の創出を目指して取り組みました。

2) 同窓会活動

2019年4月1日現在の同窓会員数は、学部 9,081名、大学院 394名、合計 9,475名です。2018年度の主な活動は、次のとおりです。

(1) 理学療法学科1期生同窓会の開催

同窓会では、各学科主催の同窓会開催を支援しています。2018年度は、理学療法学科1期生同窓会を開催しました。

開催日：2018年10月28日

参加人数：同窓生17名、教職員2名



【理学療法学科1期生同窓会】

(2) 本学連携総合ゼミへの同窓生参加

同窓会では在学学生支援活動の一環として、医療福祉の現場で活躍中の同窓生が本学「連携総合ゼミ」に参加し、在学学生との交流を図る活動を行っています。

2018年9月5日開催の「連携総合ゼミ」に同窓生10名が参加し、実際の臨床現場における多職種間連携の事例を紹介しながら、プレゼンテーション資料の作成についてアドバイスをを行いました。



【連携総合ゼミ 同窓会の参加者】



【連携総合ゼミ 同窓生からのアドバイスの様子】

(3) ホームカミングデー開催

同窓生が母校を訪問し、学科活動や部活動イベント等の見学、その後の懇親会を通じて、大学の近況を知るとともに、大学に対する母校愛を醸成してもらうことを目的にホームカミングデーを開催しました。

開催日：2018年10月6日

会場：新潟医療福祉大学

参加人数：約115名（内、同窓生22名）



【ホームカミングデー「あそびのひろば」】

(4) 連携研修会の開催

2018年11月3日に新潟医療福祉大学にて理学療法学科が主管となり、連携研修会を開催し、同窓生11名、在学学生8名、一般2名、教職員4名が参加しました。

(5) 同窓会誌の刊行

9月に同窓会誌「伍桃ニューズレター」を発刊、3月に「伍桃No.15」を刊行しました。同窓生の近況や大学情報および大学院案内等が掲載されています。

3) 県人会の新規設立と活動

2018年度に「秋田県人会」が設立され、現在8つの県人会組織が活動しています。現在設置する県人会は以下の通りですが、2019年度は宮城県人会の立ち上げに向けて準備を進めています。

- ・福島県人会(2011年度設立)
- ・新潟県人会佐渡支部(2012年度設立)
- ・長野県人会(2013年度設立)

- ・山形県人会(2014年度設立)
- ・群馬県人会(2015年度設立)
- ・沖縄県人会(2016年度設立)
- ・北陸圏人会(2017年度設立)
- ・秋田県人会(2018年度設立)
- ・宮城県人会(2019年度設立予定)



【第1回秋田県人会開催時の写真】

4) 学生寮「N-Village 伍桃」の運営

2018年4月に開寮した学生寮「N-Village 伍桃」には、寮1期生299名が入寮しました。寮生による学生寮組織として、「学修プログラム委員会」「衛生委員会」「催事委員会」「広報活動委員」の4つの委員会を設置し運営を行いました。単なる生活の場としての機能にとどまらず、将来、QOL サポーターとして働くための基礎となる学修プログラムおよびレクリエーションなどを開催し、寮生活を通じた人材育成にも力を入れています。



【N-Village 伍桃 外観】



【定期テスト攻略会の様子】



【クリスマスパーティーの様子】

5) 学生のクラブ活動等

(1) スポーツ振興推進大学の選定と活動実績

スポーツ庁から「大学横断的かつ競技横断的統括組織（日本版NCAA）創設事業（大学スポーツ振興の推進）」を委託する大学15校、そのうち新たに委託された大学9校に本学が採択され、医療福祉系大学では初めて、大学スポーツ振興の推進事業を受託することになりました。

2016年度より設置しているスポーツ振興室が大学スポーツ分野の統括業務を担当し、ブランド力向上に向けた施策立案やコンプライアンス遵守、安全対策に取り組んでいます。

さらに2018年度から学校法人にスポーツ推進室に大学スポーツアドミニストレーターを配置し、学内外の調整を行っています。

委託事業の内容は、地域と大学が連携・協働・共創する場を作り、共に QOL を向上させることを目的とし、「小学生を対象としたスポーツ教室（陸上・体力アップ向上）の質の向上」「スポーツ障害予防フォーラム（小学生ミニバスケット）の実施」「アルビレックスグループと連携した人材の育成（SNS セミナー）」「障害者スポーツ（車いすバスケ・義足での陸上）のさらなる振興」を実施しました。

（2）強化指定クラブの競技成績

現在本学には9つの強化指定クラブ（水泳部、陸上競技部、男女サッカー部、男女バスケットボール部、女子バレーボール部、硬式野球部、ダンス部）があり、トップアスリートの育成を目指し様々な活動および支援が行われています。2018年度は、全日本学生選手権において水泳部と陸上競技部でそれぞれ学生チャンピオンを輩出しました。また、水泳部では FINA スイミングワールドカップの男女混合200mフリーリレーにおいて優勝という快挙を達成し、世界水泳選手権（25m）では日本新記録を樹立する選手も誕生しました。硬式野球部では、NPB（日本プロ野球機構）ドラフト会議において、本学二人目のプロ野球選手が誕生（育成枠1位指名）しました。その他、陸上競技部で日本選手権入賞者の輩出、水泳部で日本選手権において表彰台2名を含む5名9種目の入賞、男子サッカー部で全日本学生サッカー選手権ベスト16、女子サッカー部は、なでしこチャレンジリーグ7位、バスケットボール部は男女が全日本学生選手権に出場しました。その他、学友会公認クラブでも全国大会出場や国民体育大会にて県代表選手として出場し実績を上げています。

2018年度の各強化指定クラブの主な大会成績は以下のとおりです。

①世界大会出場結果

・FINA スイミングワールドカップ2018

男女混合 200m フリーリレー 優勝（松井・佐藤・寺山・田中）

男女混合 200m メドレーリレー 2位（松井・佐藤・水沼・深澤）

・第14回世界水泳選手権大会（25m）

男女混合 200m フリーリレー 4位 日本新記録（松井浩亮・佐藤綾出場）

男女混合 200m メドレーリレー 4位 日本新記録（佐藤綾出場）

女子 4×50m メドレーリレー 4位 日本新記録（佐藤綾出場）

②各強化指定クラブ結果

【水泳部】

・第94回日本学生選手権水泳競技大会

男子 100m バタフライ 優勝（水沼尚輝）

男子 100m バタフライ 5位（田中優弥）

女子 100m 平泳ぎ 4位（深澤 舞）

女子 200m 平泳ぎ 6位（出澤美和）

女子 50m 自由形 8位（寺山真由）

・第94回日本選手権水泳競技大会

男子 100m バタフライ 3位（水沼尚輝）

男子	50m 自由形	4位	(松井浩亮)
男子	50m バタフライ	7位	(田中優弥)
女子	50m 自由形	3位	(佐藤 綾)
女子	100m 自由形	5位	(佐藤 綾)
女子	50m 平泳ぎ	5位	(深澤 舞)
男子	OWS10km	5位	(桑添 陸)
男子	OWS10km	6位	(青木陽佑)

・ジャパンオープン 2018

男子	50m 自由形	2位	(松井浩亮)
男子	100m 自由形	5位	(松井浩亮)
男子	50m バタフライ	6位	(田中優弥)
男子	50m バタフライ	7位	(水沼尚輝)
女子	50m 自由形	4位	(佐藤 綾)
女子	50m バタフライ	8位	(寺山真由)
男子	100m 自由形	5位	(松井浩亮)



【FINA ワールドカップ優勝 佐藤・寺山・田中・松井】

【全日本学生選手権 優勝 水沼 尚輝】

【陸上競技部】

- ・2018 日本学生陸上競技個人選手権大会

男子	100m	6位	(横川康佑)
男子	走高跳	8位	(長谷川直人)
男子	円盤投	3位	(高倉星也)
男子	円盤投	4位	(松田知利)
- ・第102回日本陸上競技選手権大会

男子	走高跳	7位	(長谷川直人)
----	-----	----	---------
- ・第86回日本学生陸上競技対校選手権大会

男子	走高跳	優勝	(長谷川直人)
男子	100m	8位	(横川康佑)
男子	200m	7位	(横川康佑)
男子	円盤投	5位	(高倉星也)
女子	やり投げ	3位	(井口華穂)
- ・第35回全日本大学女子駅伝対校選手権大会 出場
- ・第50回秩父宮賜杯全日本大学駅伝対校選手権大会 出場

- ・第 92 回北信越学生陸上競技対校選手権大会
男子 総合優勝 (8 連覇) 女子 総合優勝 (7 連覇)
- ・第 40 回北日本学生陸上競技対校選手権大会
男子 総合優勝 女子 総合 2 位



【日本学生個人入賞者 高倉・松田・長谷川】

【全日本大学・女子駅伝北信越地区予選会 男女優勝】

【男子サッカー部】

- ・第 46 回北信越大学サッカーリーグ 1 部 1 位
- ・第 98 回天皇杯全日本サッカー選手権新潟県予選会 優勝
- ・第 98 回天皇杯全日本サッカー選手権大会 出場
- ・第 42 回総理大臣杯全日本大学トーナメント大会 出場
- ・第 68 回全日本大学サッカー選手権大会 ベスト 1 6

【女子サッカー部】

- ・第 27 回全日本大学女子サッカー選手権大会 出場
- ・2018 なでしこチャレンジリーグ 7 位
- ・平成 30 年度北信越女子サッカーリーグ 優勝

【男子バスケットボール部】

- ・第 52 回笹本杯争奪北信越大学バスケットボール 春季リーグ戦大会 1 部 2 位
- ・第 63 回新潟日報杯争奪バスケットボール選手権大会 優勝
- ・第 93 回天皇杯全日本バスケットボール選手権大会 (1 次ラウンド) 2 位
- ・第 51 回北信越大学バスケットボール選手権大会兼インカレ予選会 2 位
- ・第 70 回全日本大学バスケットボール選手権記念大会 出場

【女子バスケットボール部】

- ・第 52 回笹本杯争奪北信越バスケットボール春季リーグ戦大会 1 部優勝
- ・第 63 回新潟日報杯争奪バスケットボール選手権大会 3 位
- ・第 85 回皇后杯全日本バスケットボール選手権大会 (1 次ラウンド) 優勝

【女子バレーボール部】

- ・第 49 回春季北信越大学バレーボール選手権大会 1 部優勝
- ・第 37 回東日本バレーボール大学選手権大会 ベスト 1 6
- ・第 66 回秋季北信越大学バレーボール選手権大会兼インカレ予選会 優勝
- ・第 65 回全日本バレーボール大学女子選手権大会 ベスト 3 2

【硬式野球部】

- ・ 関甲信学生野球連盟 春季 1 部リーグ 6 位(1 部残留)
- ・ 関甲信学生野球連盟 新人戦大会 2 位
- ・ 関甲信学生野球連盟 秋季 1 部リーグ 5 位(1 部残留)

【ダンス部】

- ・ 第 31 回全日本高校・大学ダンスフェスティバル（神戸） 予選敗退
- ・ アーティスティックムーブメント・イン・トヤマ 2018 審査員賞(3 位)
- ・ コンクールの他、地域イベント等のゲスト出演多数



【天皇杯 1 回戦 AC 長野バルセイロ戦 (J3)】



【春季北信越学生バレーボール選手権 優勝】

6) 学生募集・入学選考試験関連

本学の教育の重要課題（国家試験等合格率・就職率・退学抑止・卒業率）の向上に資する、質の高い入学者の獲得を目的に、関東圏エリア(特に東京・埼玉)への広報強化による志願エリアの拡大および県外志願者数の増加、本学を第 1 志望とする志願者数（AO 入試・推薦入試の志願者数）の増加を重点課題とし、学科別・エリア別・入試区分別の広報戦略および入学選考試験制度を策定・実行しました。また、私立大学研究ブランディング事業における研究活動や地域貢献活動、スポーツと医療・福祉を融合させた独自の教育・研究環境によるトップアスリートの育成および競技実績について広く広報し、募集力およびブランド力の向上を図りました。

まず広報活動においては、本学を第 1 志望とする志願者層の拡大に向け、オープンキャンパス改革を推進し、事務局の各専門部署によるプログラム（連携教育関連プログラム、学生寮見学ツアー、学費・奨学金説明会、国際交流紹介、強化指定クラブ紹介等）の実施、学科別プログラムの見直し、入試関連プログラムの充実化（試験区分・試験科目別の対策講座の実施）等を図り、動員強化を図りました。また、学科別広報計画に基づく学科個別の広報活動を推進し、学科別リーフレットの作成、SNS での情報発信、教員による高校訪問、出張講義・公開講座の実施、各種ガイダンスにおける学科体験ブースの出展等に取り組み、学科情報の発信に努めました。

併せて、関東圏エリアを中心に広域エリアでの認知度向上および情報発信の強化に向け、スマートフォンサイトの充実や SNS の活用をはじめとした SEO 対策（内部施策）を強化するとともに、SEO 対策（外部施策）として WEB 広告の配信を戦略的に拡充し、WEB プロモーションの強化に努めました。また、私立大学研究ブランディング事業については、リーフレットの作成や特設サイトの開設、オープンキャンパスやイベントで関連プログラムを実施したほか、大学のブランドイメージの向上を目的とした統一デザインによる WEB サイトの作成や各種広告媒体の出稿等を通じて、校名認知および大学ブランドの向上に

向けた広報活動を展開しました。

【SHAIN プロジェクトの特設サイト】

次に入学選考試験においては、アドミッション・ポリシーに沿った多様な入学者の獲得に向け、AO入試、推薦入試、

一般入試の各試験区分において、新たな選抜方式の設定や試験科目の追加実施等の入試制度改革を実行しました。

AO入試では、試験期間の短縮や試験科目の見直し（レポート課題の廃止）を実施し、受験負担の軽減を図りました。推薦入試では、特別推薦入試の出願資格の緩和や指定校推薦入試の指定校数の拡充（関東圏含む）および出願条件（評定平均値条件）の緩和、スポーツ推薦入試の募集学科の拡充（6学科から7学科へ）を実施し、受験機会の増大を図りました。



また一般入試では、前期日程の試験日を昨年同様に2日間設定し、競合他大学との試験日程重複のリスク回避に努めたほか、後期日程の試験科目において、「数学I・数学A」を任意受験できる学科を拡充（1学科から7学科へ）し、理系科目を得意とする受験生の出願促進に努めました。

【夏のオープンキャンパスの様子】

これらの取り組みにより、2018年度の各種実績（受験学年）は、資料請求数23,078件（前年比118.4%）、オープンキャンパス受付者数3,916件（前年比104.2%）、志願者数4,160件（前年比101.3%）といずれも前年度を上回る結果となり、特に注力した関東エリア（1都6県）の志願者数は、全入試区分において384件、前年比124.3%と大幅に増加し、志願者数の拡大を達成することができました。

(1) 2018年度の主な学生募集活動

- ①入学選考試験実施 全12区分
- ②一般入試試験会場設置：新潟、東京、郡山、高崎、長野、富山、鶴岡、仙台
- ③オープンキャンパス等の学内イベント実施 全11回
- ④オープンキャンパス無料バスツアーの実施 全6回 1都11県44都市より運行
- ⑤高校内進学ガイダンス（出張講義等含む）参加 県内143回 県外112回
- ⑥会場形式進学ガイダンス参加 県内30会場 県外117会場
- ⑦高校生徒、保護者、教員等の大学訪問受け入れ 46団体
- ⑧高校教諭対象大学説明会実施 2回
- ⑨パブリシティー掲載 掲載数 699件（内；全国紙281件※）

※全国紙には雑誌・全国放送・ネットニュース等含む

⑩各種SNSの登録者数等

LINE 登録者数	8,872名（前年+2,043名）
twitter フォロワー	5,330名（前年+283名）



facebook いいね	1,326名 (前年+91名)
Youtube 登録者数	346名 (前年+90名)
Instagram フォロワー	1,212名 (前年+656名)
※いずれも5月7日現在	

(2) 2019年度入学選考試験(2018年度実施)の主な変更内容

①指定校入学選考試験

- ・指定高等学校を拡充(前年から100校103名の追加)
- ・首都圏エリアの指定高等学校を拡充(東京・埼玉で19校を41名追加)

②スポーツ推薦入学選考試験

- ・前期日程にて視機能科学科で追加募集し計8学科で実施(理学療法学科・作業療法学科・義肢装具自立支援学科・視機能科学科・救急救命学科・健康スポーツ学科・社会福祉学科・医療情報管理学科)

③一般入学選考試験

- ・後期日程の試験会場として「仙台会場」を新設し、計6会場で実施(新潟会場・東京会場・
郡山会場・長野会場・鶴岡会場・仙台会場)
- ・後期日程の試験科目として「数学Ⅰ・数学A」を任意受験できる学科を3学科追加し、計10学科で実施(理学療法学科・作業療法学科・言語聴覚学科・義肢装具自立支援学科・臨床技術学科・視機能科学科・救急救命学科・診療放射線学科・健康栄養学科・医療情報管理学科)
※「数学Ⅰ・数学A」を受験した場合は、必須科目と「国語総合または数学Ⅰ・数学Aの得点の高い1科目」にて合否を判定。

④3年次編入学選考試験

- ・社会福祉学科において、指定校を拡充(前年から2校の追加)

⑤特待生制度

- ・特待生枠を拡充(A特待生:前年から15名程度追加、B特待生:前年から5名程度追加)
※A特待生:最大で4年間の授業料を全学免除(入学金、施設設備金、実験実習料を除く)
B特待生:1年次の授業料を全学免除(入学金、施設設備金、実験実習料を除く)
- ・学科別のA特待生枠の新設
- ・AO・推薦等合格者対象特待生選抜試験の試験会場として「東京会場」を新設し、計2会場で実施(新潟会場・東京会場)

7) 教育・研究環境の整備

(1) 既存の施設設備修繕・保全工事の実施

- ①第2期「5ヶ年計画」に基づく建物修繕工事の実施(3年目工事)
- ②第3厚生棟3階講義室の椅子全台交換工事の実施
- ③砂利駐車場の補修工事の実施(年2回(4月、9月実施))
- ④エレベーター設備保全工事
- ⑤プール脇倉庫の防湿工事の実施
- ⑥更新時期となった照明のLED化工事の実施

(2) 構内の交通安全・防災・防犯対策の実施

学生および教職員が安全な環境の下で教育研究活動に取り組めるように次のような対策を実施しました。

- ①防災マニュアルの更新と防災訓練の実施（6月、10月）
 - ②第12駐車場の増設
 - ③防災備蓄庫の設置と防災備蓄品の備蓄開始（3年計画1年目）
 - ④信号機（大学入口バス停付近の県道と市道との交差点）設置要望書の提出（北警察署へ8回目）
 - ⑤2014年度提出の冠水対策実施要望書に基づき新潟市北区と冠水対策を協議※
※協議の結果、新潟市は調整池の浚渫を年2回（7月、12月）実施した。
 - ⑥構内及び市道に設置してある外灯及び防犯灯の不灯箇所調査し、構内の安全のほか環境にも配慮し不灯箇所のランプをLED照明へ交換の実施
 - ⑦傘のしずくによる防滑対策として「レインカット」を試験導入
- (3) 学生の利便性向上のための取り組み
- ①正規の授業の他、補講や図書館の開館時間に合わせて弾力的な学バスの運行の継続実施
 - ②学生寮に居住する寮生の利便性確保目的で学バスの深夜運行の開始
- (4) 学内保育施設「新潟医療福祉大学附属インターナショナルこども園」の運営
- 2018年4月に、子育て世代の教職員の就労支援や人材確保を目的とした学内保育施設「インターナショナルこども園」が開園しました。2018年度の園児数は5名（地域枠で1名入園）でした。本園では英語を母国語とする外国人講師を終日配置し、幼少時からの英語教育や、本学の学生とのコラボ授業など、特徴的な保育を行っています。
- 今後は、本園の情報を積極的に発信し、知名度を向上させ更なる園児の獲得に努めます。



【英語授業風景】



【学生とのコラボ授業】

(5) 第6研究・実習棟の改修

2018年4月、医療技術学部臨床技術学科の入学定員を増加したことに伴い、第6研究・実習棟の一部改修を行いました。定員増に合わせて既存の実習室を拡張するとともに、1階の学生ラウンジの一部を多目的室としました。これにより国家試験対策室としても活用することができ、更なる国家試験合格率の向上が期待されます。



【1階 多目的室】



【1階 多目的室前通路】



【3階 基礎工学実習室】



【4階 微生物実験室】

(6) 第5研究棟の改修

リハビリテーション学部義肢装具自立支援学科では、国際義肢装具協会の定めた世界的な義肢装具教育プログラム「カテゴリーⅠ」取得を目指すことに伴い、第5研究棟の一部改修を行いました。1階の適合実習室1および適合実習室2に「カテゴリーⅠ」の求める水準を満たすため個別ブースを設置しました。



【1階 適合実習室1】



【1階 適合実習室1】



【1階 適合実習室2】



【1階 適合実習室2】

(7) 学生寮「N-Village 伍桃」の第2期工事完成

学生寮「N-Village 伍桃」の第2期工事として、新たに住居棟13棟295室を建設しました。これにより第1期工事と合わせ、寮全体で住居棟26棟606室となり、全国有数の大規模な学生寮となりました。

本学生寮は単なる生活の場としての機能にとどまらず、将来、QOLサポーターとして社会で活躍するための基礎となる学修プログラムやレクリエーション等を提供していきます。



【寮敷地内風景 ※第2期工事区画内】



【住居棟 居室】



【住居棟 共用洗面・洗濯室】



【住居棟 共用浴室】

(8) 硬式野球部 投球練習場の設置

硬式野球部の投手力強化を目的として投球練習場を設置しました。6人が同時に投球可能な本施設は悪天候時も練習が可能であり、投手力の更なる向上が期待されます。



【投球練習場 外観】



【投球練習場 内観】



【新潟医療福祉大学キャンパス全景】

8) 事務局職員の能力向上に向けた取り組み

(1) SD※推進委員会活動の推進

事務局の複数部署の混成メンバーにて構成される「SD推進委員会」にて、本学職員に求められる能力(5つのSTEPS)の向上に資する様々な活動を行いました。2018年度は全12回の委員会を開催し、各種SD研修(新任職員研修、春の職員会、秋の職員会、ランチョンSD等)の企画・実施、他大学SD活動事例の研究、外部研修の情報収集・発信等の活動を行いました。2018年度はランチョンSDを教学側の委員会であるFD委員会との共同開催とし、事務局側から3回、教員側から3回、合計6回のランチョンSDを開催し、多くの教員からの参加を得ることができました。

※SD: Staff Development の略 FD: Faculty Development の略

(2) SD研修会の開催

種 別	開 催 日	テーマ・内容
新任職員 SD	2018年4月6日	大学職員としての心構え、大学紹介、施設見学等
職員全体 SD	2018年5月11日	方針・目標の発表、スローガンの策定・発表等
	2018年8月24日	[外部講師研修] テーマ：未来を導く大学職員 講 師：上杉道世氏（大正大学理事長室特別補佐）
教職合同 SD	2018年8月22日	[外部講師研修] テーマ：大学入試改革の進め方 講 師：中村浩二氏（株式会社進研アド）
	2019年3月27日	テーマ：スローラーナーに関する研修会 講 師：新田初美 教授（学習支援センター）
ランチン SD	2018年11月5日	「SHAINの未来予想図」SHAINプロジェクト
	2018年11月20日	「UNIVASについて」スポーツ振興室
	2018年12月4日	「ベストティーチャー座談会」FD委員会
	2018年12月18日	「各学科による広報活動の紹介」入試広報部
	2019年1月15日	「3.2.1 弁当箱法」FD委員会
	2019年1月24日	「講義アイデア」FD委員会

(3) その他活動

2017年度にひきつづき、本学の特色や魅力等の大学情報について、全職員の知識・理解の向上および外部発信力の強化を目的に、事務局の部署横断型による広報活動推進チーム（通称：ポップスタッフ）を編成し、入試広報部の指導のもと、学外者への大学施設見学の対応、高校生等を対象とした各種ガイダンスへの参加、所属部署に関連する広報活動の推進等を行いました。

2. 事業創造大学院大学

本学は、基本理念である（１）独立あるいは組織内で新規事業を創造しうる人材の育成、（２）地域社会のニーズに応えうる人材の育成、（３）国際社会に貢献しうる人材の育成の実現に向けて、国内外から優秀な学生が集まる大学院を構築し、国内および国際社会で活躍し貢献する人材の育成に努めています。

1) MBA経営管理修士（専門職）の授与

2018年9月の学位記授与式では25名、2019年3月の学位記授与式では56名にMBA経営管理修士（専門職）の学位を授与しました。

2) 客員教授や特別講師による特別講義の実施

社会の第一線で活躍中の起業家や実務家、研究者の方々から本学設立の趣旨にご賛同いただき客員教授に就任して頂いています。客員教授や特別講師による特別講義の開催状況は次のとおりです。

	開催日	講師氏名	開催時現職	参加数
1	2018年6月2日	清水 秀雄	株式会社トップカルチャー 代表取締役社長	105名
2	2018年7月28日	玉生 弘昌	株式会社プラネット 代表取締役会長	91名
3	2018年9月1日	松田 修一	早稲田大学 名誉教授	99名
4	2018年9月22日	大嶋 啓介	株式会社てっぺん 代表取締役	70名
5	2018年11月24日	坂田 一郎	東京大学 工学系研究科 教授	120名
6	2018年12月1日	山本 善政	株式会社ハードオフコーポレーション 代表取締役会長兼社長	118名
7	2019年1月12日	加藤 雄一	株式会社光・彩 社外取締役	86名
8	2019年2月2日	近藤 太香巳	株式会社ネクシィーズグループ 代表取締役社長兼グループ代表	89名



【坂田一郎客員教授による特別講義(2018.11.24)】



【山本善政客員教授による特別講義(2018.12.1)】

3) 諮問委員会の実施

外部有識者から意見等を伺い、大学運営に役立てるため、「諮問委員会」を設置し運営しています。委員は各界の第一線で活躍されている有識者の方々10名に委嘱しています。会議はおおむね年2回開催され、教育研究上の目的を達するための基本的な計画や教育研究活動の状況に関し、毎回貴重なご意見を頂いています。

2018年度は8月と2月に開催しました。

今後も外部からの有益な視点を取り入れ、大学運営に役立てていきます。

4) 海外の大学との積極的な交流協定推進

本学では世界13カ国36大学との間で交流協定を締結しており、交流協定校からの学生の受入れをはじめ、教員間の交流、共同研究と講義、講演、シンポジウムなどの実施を行っています。本学と世界を結ぶグローバルネットワークを今後もさらに広げていきます。

2018年度はロシア極東連邦総合大学での特別講義とインドネシア・ダルマプルサダ大学およびサラスワティ外国語大学での特別講義を実施いたしました。



【ロシア極東連邦総合大学にて
富山副学長による特別講義(2018.04.02)】



【サラスワティ外国語大学にて
岸田教授による特別講義(2018.06.06)】



【ダルマプルサダ大学にて
岸田教授による特別講義(2018.06.07)】

また、2014年から開始して第5回目となるベトナムとのビジネスマッチングと現地調査を開催しました。

母国のベトナムで起業した本学修了生の事業状況やビジネスプラン等に関するプレゼンテーションや本学在学学生によるビジネスプランのプレゼンテーションを実施しました。その中で、交流協定校である貿易大学、ハノイ国家大学外国語大学、ハノイ大学の先生方からの評価とコメントや、新潟県企業の現地駐在員の方やベトナム企業経営者やその関係者、交流協定大学の学生など多数の参加者との活発な議論が交わされました。このビジネスマッチングは、新潟からの進出企業とベトナム人修了生と本学在学学生のネットワークをつなげる試みとして、学内外から評価を頂いています。



【ハノイビジネスマッチングの様子(2018.09.23)】

	国	都市	交流協定大学	調印日
アジア	インド	ブネー	ティラク・マハラシュトラ大学	2014年09月11日
	インドネシア	ジャカルタ	ダルマプルサダ大学	2013年02月26日
		デンパサール	マハサラスワティ・デンパサール大学	2013年04月08日
		デンパサール	国立ウダヤナ大学	2013年04月08日
		韓国	全北	又石大学校
	カンボジア	プノンペン	王立プノンペン大学	2014年06月30日
		プノンペン	カンボジアメコン大学	2017年05月12日
	タイ	バンコク	タイ商工会議所大学	2011年08月05日
		バンコク	泰日工業大学	2014年09月19日
	中国	延吉	延辺大学	2010年12月03日
		大連	大連大学	2014年09月11日
	ベトナム	ハノイ	貿易大学	2009年07月13日
		ホーチミン	貿易大学 ホーチミン校	2016年05月13日
		ハノイ	ハノイ大学	2010年10月06日
		ハノイ	ハノイ国家大学外国語大学	2010年10月27日
		フエ	フエ外国語大学	2015年06月08日
		ダナン	ダナン外国語大学	2015年06月08日
		ハノイ	タンロン大学	2018年01月05日
	モンゴル	ウランバートル	モンゴル国立大学 経済学部/ 同 大学 総合科学学部	2010年08月03日 2017年11月17日
		ウランバートル	国立モンゴル科学技術大学	2010年08月03日
ウランバートル		モンゴル金融経済大学	2010年08月07日	
ウランバートル		モンゴル国大学院大学	2016年11月18日	
欧州	イタリア	トリノ	トリノ大学	2015年10月05日
	カザフスタン	アルマティ	アル・ファラビ名称カザフ国立大学	2015年11月25日
	スロバキア	ブラチスラバ	国立コメニウス大学	2014年05月26日
		ブラチスラバ	バンヨーロピアン大学	2014年09月29日
	ハンガリー	ブタペスト	国立ブタペスト商科大学	2014年05月26日
		ブタペスト	国立法門仏教大学	2014年10月02日
		ブタペスト	カーロリ・ガーシュパール・カルビン派大学	2016年12月15日
		ブダペスト	エトヴェシュ・ローランド大学	2017年05月12日
	ロシア	サンクトペテルブルク	サンクトペテルブルグ国際経済法律大学本校	2010年12月24日
		ウラジオストク	ウラジオストク国立経済サービス大学	2012年12月24日
		ハバロフスク	ハバロフスク国立経済法律大学	2012年12月26日
		ハバロフスク	極東国立人文大学	2012年12月27日
		ウラジオストク	ロシア海洋国立大学	2013年07月03日
		ウラジオストク	極東連邦総合大学	2013年08月08日

5) 教職員の能力向上に向けた取り組み

(1) SD・FD研修の実施

全教職員を対象とした管理運営や教育・研究支援までを含めた資質向上のための組織的な取り組みを推進するSD・FD委員会を設置して教職員の質向上に取り組んでいます。

2018年度は教員を対象とした定例のFD活動を毎月1回開催し教育の質向上を図りました。また、全教職員を対象としたSD研修を5月と12月、1月の年3回開催し大学運営職員としての資質向上に取り組みました。

	実施日	講師	テーマ	参加者人数
1	2018年5月30日 (平成30年度)	事業創造大学院大学 学長 仙石正和	経営系専門職大学院の動向 と本学の方向性	16名
2 ※注	2018年12月19日 (平成30年度)	新潟産業保健総合支援センター(シニア 産業カウンセラー) 米田睦美氏	メンタルヘルスに役立つ職 場での気遣い	11名
3	2019年1月16日 (平成30年度)	新潟大学キャリアセンター 副センター長・准教授 西條秀俊氏	就職支援について	35名

※注は、新潟総合学園新潟医療福祉大学との共催による活動。参加人数は本学教職員のみ的人数。

6) その他活動

(1) 社会連携・セミナーの開催

新潟地域企業等が抱える個別の課題に直接的に
応えられる機会の創出と地域貢献を目的として
セミナーの開催や本学講師陣の出張講義等に
取り組んでいます。

2018年度は、新潟県内企業の経営層を対
象としたトップマネジメントセミナー(テ
ーマ:「次世代経営人材(コア人材)の育成」/
講師:本学副学長・研究科長 五月女政義)を開
催し、多くの企業の経営者や人事担当の方にご
参加いただきました。今後も、企業
経営に役立つ各種セミナーを検討していきます。



【トップマネジメントセミナーの様子(2018.10.24)】

(2) 女性起業家育成塾の開講

女性の新しいキャリア・ステージの形であ
る起業支援を強化すべく「女性起業家」を
育成し社会の活性化を図ることを目的に、「女
性起業家育成塾」を開講しました。2018年
度は8月と3月の年2回開講し、3月には本
学在学学生4名の事業計画のプレゼンテー
ションが行われました。



【女性起業家育成塾の様子(2019.03.29)】

3. 新潟食料農業大学

本学は「生命、環境、社会を科学する力と、食と農に関する広い知識と技術を総合的に身につけ、課題の解決に前向きに取り組む人材を育成するとともに、実社会に直結する研究開発を通じて地域と国際社会の発展に貢献する。」ことを目的に、2018年4月に食料産業学部 食料産業学科の1学部1学科に、アグリ・フード・ビジネスの3つのコース課程を備える、「食・農・ビジネスを一体的に学ぶ大学」として開学しました。

開学初年度となる2018年度は、教育研究基盤・体制の強化を図るとともに、食や農に関する知の集積と実社会への還元を行う「知の拠点」として地域活性の中核的な役割を担うべく、社会連携を通じたさまざまな取り組みを実践してきました。

また、これら特色ある教育活動ならびに社会連携活動の成果を国内外へ発信することで、新潟食料農業大学のオンリーワンブランドを構築・浸透させ、「食のジェネラリスト」を目指す優秀な学生の獲得に努めてきました。

1) 組織体制

食料産業学部 食料産業学科に2年次選択コースとしてアグリコース・フードコース・ビジネスコースの3コースを配置した1学部1学科3コース体制で開学した本学では、胎内市と新潟市に各コースの教育研究の拠点となる2つのキャンパスを整備し、食・農・ビジネスの各分野で教育研究、実務経験豊富な専任教員19名のもと、開学初年度をスタートしました。

より質の高い教育研究活動の実現および学長のリーダーシップによるガバナンス体制の構築に向け、教育研究を管轄する「教授会」ならびに大学運営を管轄する「総務会」を重要事項の最高審議機関とし、それぞれに関連する10委員会のもと各種活動を推進してきました。

また地域・自治体・企業等との連携による社会貢献活動ならびにキャリア教育を推進する組織として「社会連携推進室」を教学組織として設置していることも特色となっています。

事務局組織では、事務局長の管理・責任のもと、「総務課」、「学務課」、「入試広報課」、「社会連携推進課」を配置し、教職協働による大学運営を行いました。

2) 教育・研究活動

(1) 特色ある教育活動の実践

2018年度は語学や情報処理等の教養を学ぶ「教養科目群」、食料産業の基礎を学ぶ「基礎科目群」、また本学の特色である食・農・ビジネスを一体的に学ぶ「共通科目群」の3つの科目群から計33科目を開講し、月曜日は新潟キャンパスで、火曜日から金曜日は胎内キャンパスでそれぞれの教育環境を活かした教育活動を展開しました。



【農学基礎実習の様子】

各科目群にはゲストスピーカーを招聘して実施される講義や3コースの教員がオムニバス形式で担当する講義など本学独自の科目を多数配置し、特色ある授業を実践しました。

また農業および農業技術の基礎を学ぶ「農学基礎実習」では、5月に田植え作業、9月に稲刈り作業が行われ、学長をはじめ多くの教職員が学生とともに参加しました。

【2018年度開講科目】

- 教養科目群24科目のうち19科目開講（必修9科目、選択10科目）
- 基礎科目群11科目のうち 7科目開講（いずれも必修科目）
- 共通科目群20科目のうち 7科目開講（必修6科目、選択1科目）

(2) キャリア教育

将来、食料産業界で食のジェネラリストとして即戦力で活躍するために、1年次からキャリア教育科目を配置し、2018年度は以下の科目を開講しました。

【2018年度開講のキャリア教育科目】

● 基礎ゼミ I

胎内市の伝統的な露天市である「三八市」への出店（6月23日/7月8日）に向け、商品企画、仕入れ、利益計算などをすべて学生が行い、また出店後は活動成果や収支などを発表しました。



【基礎ゼミ I では胎内市の露天市「三八市」に出店】

● インターンシップ I

早期から将来の就業イメージを高めることを目的に、農場、食品加工センター、青果市場、農家レストランなど、食料産業に関わるさまざまなフィールドを研修先として体験型の学習を行いました。

【基礎ゼミ I では胎内市の露天市「三八市」に出店】

(3) ゲストスピーカーによる授業展開

食料産業界の最前線で活躍されている方をゲストスピーカーとして招聘し、新たな農業や食料産業ビジネスを創造・振興するために必要な資質や姿勢について理解を深める授業を展開しました。2018年度は以下の計23名のゲストスピーカーによる講義を行いました。

<ゲストスピーカーによる講義科目（前期）>

【基礎ゼミ I】

4月25日	鈴木 孝 氏	胎内市 商工観光課 商工観光係 主任
7月19日	白川 雅人 氏	胎内市 商工観光課 商工観光係 主事

【食料産業概論】

5月16日	加藤 正樹 氏	元一般財団法人食品産業センター 技術環境部 次長
6月20日	山口 隆司 氏	一般財団法人食品産業センター 振興部・海外室 次長
7月18日	池田 祐一 氏	一般財団法人食品産業センター 企画調査部 次長

【新潟と地域社会】

6月20日	水澤 幸一 氏	胎内市 教育委員会 生涯学習課 参事
6月27日	村上 徹也 氏	新潟市 農林水産部 部長
7月4日	春日 俊雄 氏	新潟産業大学 講師
7月11日	荒木 剛 氏	亀田郷土地改良区企画課 課長
7月18日	米田 実 氏	株式会社シェンロンインターナショナル 顧問

【環境科学概論】

7月5日	塚田 眞弘 氏	新潟県立環境と人間のふれあい館 館長
------	---------	--------------------

【法学】

7月21日 7月28日	内藤 邦男 氏	一般社団法人 JA 共済総合研究所 理事長
----------------	---------	-----------------------

<ゲストスピーカーによる講義科目（後期）>

【食品学概論】

10月12日	久能 昌朗 氏	キュービ-株式会社コーポレート・サイエンティスト・フェロー
10月25日	青木 光達 氏	あおき味噌株式会社 代表取締役
11月2日	金桶 光起 氏	新潟県醸造試験場 場長
11月9日	木戸 隆 氏	中越酵母工業株式会社 製造部 部長
11月30日	新野 義弘 氏	朝日酒造株式会社 経営企画部 部長
12月14日	村林 伸嗣 氏	一般財団法人食品産業センター 企画調査部 参事

【食品開発・製造論】

10月25日	佐久間 欣也 氏	日東アリマン株式会社 専務取締役 研究開発本部長
11月2日	横向 慶子 氏	国際生命科学研究所 事務局 次長
11月30日	堀池 俊介 氏	一般財団法人食品産業センター 技術環境部 次長

【農業・農村の暮らし】

11月24日	吉田 行郷 氏	農林水産省 農林水産政策研究所 企画広報室長
2月13日	雫石 征太郎 氏	日本農業新聞信越支局新潟駐在

(4) 授業外での教育活動

地域を学びのフィールドとし、地域貢献活動と教育活動を有機的に結び付ける「地域連携プロジェクト」を展開しました。また、大学生・大学院生が「外食産業の未来」をテーマに企画・提案するビジネスコンテスト『外食インカレ2018』に本学1年生チーム（3名）が初挑戦し、全国から138チームが参加する中、唯一の1年生チームである本学が見事第4位（奨励賞）を受賞する快挙を達成しました。

【2018年度授業外活動実績】**① マコモダケの価値創造プロジェクト**

胎内市鼓岡地区で栽培されているマコモダケ（イネ科の植物）に新しい価値を生み出し、商品化に結び付けることを目指し、地域の方々や地域おこし協力隊の協力のもと、栽培や新たな調理法の開発などに取り組みました。

② 耕作放棄地での神楽米づくりプロジェクト

胎内市坂井地区の耕作放棄地を活用し、農薬を一切使用しない米づくりに挑戦しました。収穫したお米は本学の学生食堂で利用されたほか、東京・表参道で販売するなど、ビジネスの側面からも貴重な経験を得ることができました。

③ 胎内高原ワイナリーでのワインづくり体験

胎内高原ワイナリーの協力のもと、ワインブドウの栽培を体験しました。また醸造所の見学や販



【ワイナリーでブドウ栽培を体験】

売イベントにも参加するなど、栽培・加工・販売にいたる“フードチェーン”を体験的に学ぶことができました。

④ 外食インカレ2018への挑戦

＜コンテスト概要＞

名 称：外食インカレ2018

主 催：日本フードサービス協会、日本フードサービス学会

後 援：経済産業省、農林水産省

出 場 数：全国の大学・大学院生による138チーム

審査方法：第1次審査（30チーム）→第2次審査（6チーム）→最終選考

本学出場者：1年生3名による1チーム

テ ー マ：外食は働くママたちの味方 ～0歳からの外食デビュー～



【外食インカレ2018で見事4位受賞！】



【出場チーム唯一の本学1年生チーム】

本学結果：奨励賞（第4位に相当）

(5) 学習指導・支援

すべての入学者が退学することなく、日々の学習に積極的に取り組むことができるよう、「学習支援の充実」を重点課題とし、入学前教育の実施、入学前スクーリングによる個別指導の実施、プレメントテストの実施および結果分析による補講教育（数学、生物、化学）の実施等の対策を実行しました。また留学生を対象に日本語教室を開講するなど、学生ひとり一人に課題に応じた個別性の高い支援・指導を実践しました。

あわせて要支援学生の早期発見に向けた相談体制を構築し、オフィスアワーの導入、4年間の切れ目のない担任制の導入、教職協働による支援フローの策定など、サポート体制の充実化にも取り組みました。

(6) 外部競争資金等の獲得

2018年度に公募された2019年度科学研究費助成事業における本学の資金受入件数は12件（代表7件／分担5件）となり、受入総額は23,492千円となりました。

また2018年度には受託研究・寄付金等の受入れにも積極的に取り組み、国立研究開発法人や民間企業などから計9件、総額20,961千円の受入実績となり、本学の教育研究分野への高いニーズによる多様な連携を実現しています。

3) 学生生活関連

学生ひとり一人が安心・安全で充実したキャンパスライフを送ることができるよう、学生生活に関する情報提供や必要に応じた支援・指導を以下のとおり計画・実行しました。

(1) 学友会活動

学生の自主性による文化活動、スポーツ活動ならびに地域活動を通じて、学生相互の親睦、資質の向上および健康増進を図り、学生生活を充実したものにすることを目的に「学友会」を発足し、学生生活や学習環境の向上に関する要望等を収集する「目安箱」の設置やスポーツ大会の開催、SNSによる情報発信、地域交流活動等に取り組みました。

また11月4日（日）には、学友会命名による「第1回 ^{とうわさい} 橙和祭（大学祭）」を開催し、模擬店の出店や本学圃場での芋ほり体験、地域連携プロジェクトで栽培したマコモダケの販売などを行いました。



【初めての大学祭（橙和祭）の様子】



【橙和祭の「橙」にちなんでミカンの木を植樹】

(2) クラブ・サークル活動

2018年度には、学生の自主活動によるサークルとして、運動系・文化系・学習系など、計19のサークルが立ちあげられ活動しました。

また自転車競技部を強化指定クラブとして創部し、専門コーチによる指導や大会への出場等を行いました。その結果、創部1年目にして「第74回全日本大学対抗選手権自転車競技大会（通称インカレ）」に1名が出場するなど、今後の更なる活躍が期待できる結果を残してくれました。

【自転車競技部 2018年度の主な戦績】

- 全日本学生RCS第4戦・白馬クリテリウムラウンド
西村 剛 選手（1年生） クラス3において優勝
※この結果によりクラス2への昇格が決定し、インカレの出場資格を獲得。
- 文部科学大臣杯 第74回 全日本大学対抗選手権自転車競技大会（トラック種目）
西村 剛 選手（1年生） 出場
- 文部科学大臣杯 第74回 全日本大学対抗選手権自転車競技大会（ロード種目）
西村 剛 選手（1年生） 出場



【強化指定クラブ自転車部の練習風景】



【全日本学生 RCS 第 4 戦 優勝の西村選手】

4) 社会連携推進活動

人材需要を踏まえた優秀な人材の地域への定着・確保を図り、地域課題の解決に貢献していくために「社会連携推進室」を設置し、関連委員会として社会連携推進委員会を、また事務局として社会連携推進課を組織し、地域、自治体、企業等との連携活動を推進しました。

(1) 包括連携協定の締結

地域・団体名	主な協定内容
日本政策金融公庫 新潟支店	研究成果のシーズと食産業事業者の技術ニーズとのマッチング、技術相談や教育および人材育成にかかる講師派遣等の交流
胎内市・JA 胎内市	農業をはじめとした胎内市地域振興および教育・学術・研究活動の実施
糸魚川市	地域の食料産業の振興、高校との連携等を通じた地域活性化と人材育成



【日本政策金融公庫との協力推進の覚書締結式】



【胎内市・JA 胎内市との 3 者協定締結式】

(2) 大学見学の受け入れ

日程	地域・団体
2018 年 5 月 28 日	胎内市高畑・宮瀬地区住民
2018 年 7 月 11 日	胎内市議会産業観光常任委員会
2018 年 7 月 17 日	新潟市北区自治協議会委員研修会
2018 年 7 月 23 日	中条地区区長会勉強会
2018 年 8 月 23 日	中条母子会
2018 年 8 月 28 日	胎内市施設見学ツアー（胎内市交流館主催）
2018 年 10 月 3 日	コミュニティ木崎福祉部会

2018年10月16日	田上町女性農業者の会
2018年10月26日	胎内市乙地区区長勉強会
2018年11月1日	胎内市食生活改善推進委員協議会
2019年2月4日	山形県東村山郡山辺町大寺 大寺みどりの会
2019年2月12日	阿賀北四市議会研修

(3) 新潟食料農業大学アグリフードセミナー（公開セミナー）の開催

開催日・会場	テーマ	講師等
2018年10月5日 新潟キャンパス	改正食品衛生法公布 とフードチェーンの 安全について	日本食品分析センター学術顧問 一色 賢司 氏 新潟県食品衛生協会専務理事 牧 吉範 氏 キッコーマン食品株式会社 品質管理部長 佐々木 努 氏 丸亀製麺品質保証部部长 草野 篤 氏
2018年10月29日 朱鷺メッセ	新潟における食料農 業の未来	宮城大学名誉教授 大泉 一貫 氏 ベジタリア(株) 代表取締役社長 小池 聡 氏 新潟市農林水産部ニューフードバレー特区課長 齋藤 和弘 氏 オランダ大使館参事官 エバートヤン・クワイエンブリック 氏
2019年1月22日 新潟キャンパス	容器開発が食料産業 に与えるインパクト	キッコーマン食品株式会社 容器包装開発チームリーダー 桑垣 傳美 氏 株式会社悠心 代表取締役社長 二瀬 克規 氏



【1月22日 第3回アグリフードセミナー「容器開発が食料産業に与えるインパクト」】

(4) その他

- 米粉フェスタ in たいない 2018
開催日程：2018年9月29日（土）～30日（日）
連携内容：渡辺好明学長講演の実施
テーマ「米粉は世界の食文化を支え、コメは人類を救う」
その他、大学紹介ブースを出店
- フードメッセ in にいがた 2018
開催日程：2018年11月7日（水）～9日（金）
連携内容：渡辺好明学長講演の実施
テーマ「新潟の食と農～新潟食料農業大学の開学と地域創生に向けて～」

5) 学生募集・入学選考試験関連

知名度・認知度の拡大および入学定員の充足に向けて、高校進路との関係強化による県内志願者の獲得、隣接県・首都圏（東京・埼玉）エリアへの広報強化による志願エリアの拡大ならびに県外志願者の増加、国公立進学希望者および女子生徒を主たるターゲットとした新規志願者層の獲得を重点課題とし、エリア別・男女別・入試区分別・競合校別のターゲット戦略および入学選考試験制度を策定・実行しました。

まず広報活動においては、県内志願者の拡大に向け、教員による高校訪問を実施し高校進路での認知向上および関係強化に努めました。あわせて隣接県および首都圏エリアを中心に各種ガイダンスおよび出張講義への参加強化、高校訪問の実施および競合大学をターゲットとしたWEBプロモーション（SNSの活用、WEB広告・WEBDMの配信等）の強化を図り、大学発見・認知導線の拡充に努めました。

オープンキャンパスでは、体験型プログラムの拡充、在学生によるプログラムの新規実施、ゲストスピーカーによる特別講演の実施、1都6県からの無料バスツアーの実施等を実行し、動員強化およびオープンキャンパス参加者からの出願率向上に努めました。

その他、食物・健康分野への興味・関心者（主に女子生徒）や文系クラス生徒、国公立志願者層を対象としたターゲット別の広報ツールの作成や当該ターゲットに対する業者リストDMの発送などの対策を実行し、新規志願者層の獲得に努めました。

次に入学選考試験においては、「AO入試」の試験科目の見直し（4科目必修から2科目選択に変更）を実施するとともに、「公募推薦入試」の出願条件（評定平均値条件）の緩和や「指定校推薦入試」の指定校数の拡充を実施し、受験対策における負担の軽減および受験者層の拡大に努めました。また「一般入試」では、試験科目に国語を追加し、文系科目を得意とする受験生の出願促進を図るとともに、本学個別の試験を課さない「センター試験利用入試」を新たに導入し、受験機会の増大および国公立大学との併願層ならびに遠方エリアの志願者の増大に努めました。さらに外国人留学生入試を新規導入し、質の高い外国人留学生の獲得強化に取り組みました。

これらの取り組みにより、入学定員は未充足となったものの2018年度の各種実績（受験学年）では、資料請求数3,441件（前年比190.7%）、オープンキャンパス受付者数375件（前年比131.1%）、志願者数334件（前年比206.2%）といずれも前年度を上回る結果となり、特に県外志願者数では前年比238.9%の増加となりました。

(1) 2018年度の主な学生募集活動

① 入学選考試験実施 全11区分

② 試験会場の増設

一般入試：新潟、東京、郡山、長野、鶴岡

自己推薦入試：新潟、東京、郡山

外国人留学生入試：新潟、東京

③ オープンキャンパス等の学内イベントの実施 全12回

④ オープンキャンパス無料バスツアーの実施 全5回（1都6県18都市より運行）

⑤ 高校内進学ガイダンス（出張講義等含む）への参加 県内63回／県外57回

⑥ 会場形式進学ガイダンスへの参加 県内24会場／県外40会場

⑦ 高校生徒、保護者、教員等の大学見学の受け入れ 12団体

- ⑧ 高校教諭対象大学説明会の開催
 - ⑨ 大学公式SNSの設置および登録者促進（登録者数は2019年5月6日現在）

LINE 登録者数	335名	twitter フォロワー	345名
facebook いいね	410名	Youtube 登録者数	62名
Instagram フォロワー	313名		
- (2) 2019年度入学選考試験（2018年度実施）の主な変更内容
- ① アドミッション・オフィス（AO）方式による入学選考試験
 - 基礎学力試験の試験科目の変更
（英語・国語・数学・理科の4科目必修から英語・国語・数学より2科目選択へ変更）
 - ② 公募推薦入学選考試験
 - 出願資格の緩和
（国語・数学・英語・理科の評定平均値3.0以上から全体の評定平均値3.0以上に変更）
 - ③ 指定校入学選考試験
 - 指定校数を拡大（前年から492校1,600名の追加）
 - ④ 一般入学選考試験
 - 試験科目に「国語」を追加
 - ⑤ 新たな試験区分の導入
 - スポーツ推薦入学選考試験／スポーツ自己推薦入学選考試験／自己推薦入学選考試験
センター試験利用入学選考試験／外国人留学生入学選考試験／2年次編入学選考試験

6) 教育・研究環境の整備

(1) 胎内キャンパス

① 施設・設備の概要

食・農系科目および教養科目を開講する講義室ならびに各種実験室を整備しています。また屋外施設として温室、ビニールハウス、畑を備えた圃場を整備しています。その他、ゼミ活動を行う演習室、研究室および就職センターや図書館等があります。

② 中条農産の活用

農学基礎実習において学生・教職員で田植え・稲刈りを体験的に学ぶために、大学近郊の中条農産の田んぼを借用し実習施設として利用しています。



【胎内キャンパス】



【オレンジを基調としたエントランス】



【高度な実験・研究機器を備えた実験室】



【日本海が展望できる学生ラウンジ】



【学内の実習畑ではジャガイモや枝豆などを栽培】

(2) 新潟キャンパス

① 施設・設備の概要

ビジネス系科目を開講する講義室、ゼミ活動を行う演習室、ビジネスコース教員の研究室のほか、社会連携の拠点となる社会連携推進室や就職センター、図書室、学生自習室等を整備しています。



【新潟キャンパス（埋め込みの写真は、地域・産官学連携の推進拠点となる社会連携推進室）】

(3) スクールバスの運行

胎内キャンパスの最寄駅である中条駅を発車地とするスクールバスを15便（中条駅⇄胎内キャンパス9便／中条駅⇄新潟キャンパス2便）を運行するとともに、多くの学生が居住するつつじが丘地域および並槻地域、ならびに近隣のスーパーマーケットを経由する運行ルートとし利便性の向上を図りました。また新潟キャンパスにおいては豊栄駅からの通学に新潟医療福祉大学のスクールバスも利用するなど、効率的な運用に努めました。

(4) 防犯・防災・交通安全に向けた取り組み

学生および教職員が安全な環境下で教育研究活動に取り組めるように以下の対策を実施しました。

- 防災（避難）訓練の実施（胎内キャンパス／新潟キャンパス）（10月）
- 外部講師による学生、教職員対象交通安全講習会の実施（11月）
講師：新潟県警交通機動隊指導係
- 冬季利用通学路をスピードパーク側からの迂回ルートに変更（12月～2月）
- 自衛消防組織の再編成と消防訓練の継続実施

7) 教職員の能力向上に向けた取り組み

教育力・指導力の向上ならびに大学運営に係る情報共有・知識向上を目的に、FD活動、SD活動に取り組みました。

委員会組織として、FD・SD委員会を設置し、2018年度には計8回の全学FD・SD研修を企画・実施したほか、新任教員を対象とした就任前オリエンテーションの実施、教員相互の授業見学の実施、教育の質の向上に関する意見交換等を行いました。

【2018年度FD・SD研修開催実績】

種別	開催日	テーマ・内容等
オリエンテーション	2018年4月2日 ～4月4日	建学の理念・精神について、学生指導方針について 大学組織、カリキュラムについて、ハラスメント防止について
本学主催 FD/SD	2018年4月5日	大学の授業とは ～授業のコツ、使える技術、学習に問題を抱える学生への対応～
	2018年4月18日	教員による高校訪問活動について 予算執行の手順について
	2018年8月22日	科学研究費助成事業への応募について
	2018年9月12日	教授法について
	2018年10月24日	[外部講師研修] テーマ：新旧入試混在期の3年間を乗り切る学生募集とは？ 講師：株式会社進研アド営業本部室長 河口 洋 氏
	2018年11月28日	外部資金の獲得方法について
事業創造 大学院大学 主催	2019年1月16日	[事業創造大学院大学主催研修] テーマ：就職支援について 講師：新潟大学キャリアセンター副センター長 西條 秀俊 准教授

Ⅲ 学園財務の概要

1. 資金収支計算書

資金収支計算書とは、学校法人の各年度における諸活動をお金の動きに着目して表したものです。教育研究に対する資金の使途（資金支出）とこれに対する資金の調達（資金収入）が明らかにされています。

平成30年度*における主な施設・設備関係支出は、新潟医療福祉大学で今年度新設した診療放射線学科での使用を主な目的とする第10研究実習棟の新築や実習用機器などが主なものとなっております。（※本章において年度は和暦を使用）

新潟医療福祉大学の校舎新築等に関しては借入れを利用することで資金的影響は小さなものとなっております。

翌年度繰越支払資金は昨年度比584百万円増加しており、計画通りの推移であるということが出来ます。

(単位：千円)

年度 収入の部	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度
学生生徒等納付金収入	5,397,790	5,682,216	5,879,396	6,083,198	6,575,151
手数料収入	111,274	101,370	124,398	136,853	136,904
寄付金収入	87,936	296,073	107,023	546,294	111,827
補助金収入	493,204	542,419	614,605	1,397,989	811,969
資産売却収入	193,597	99,023	78	301,500	100,489
付随事業・収益事業収入	28,232	26,535	33,515	32,431	69,347
受取利息・配当金収入	6,629	13,985	28,079	21,166	5,649
雑収入	65,597	43,035	70,100	98,186	108,798
借入金等収入	830,000	3,060,000	1,400,000	2,350,000	2,370,000
前受金収入	1,030,278	1,028,260	1,064,348	1,259,249	1,302,676
その他の収入	1,044,668	1,142,393	1,580,407	1,308,182	2,242,131
資金収入調整勘定	△1,023,583	△1,070,060	△1,058,006	△1,890,203	△1,367,134
前年度繰越支払資金	5,298,766	5,349,469	5,245,726	5,751,807	3,005,992
収入の部合計	13,564,392	16,314,724	15,089,673	17,396,653	15,473,804

年度 支出の部	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度
人件費支出	2,633,590	2,740,711	2,899,689	3,053,947	3,463,538
教育研究経費支出	1,409,925	1,611,341	1,624,931	2,029,317	2,161,278
管理経費支出	458,169	634,865	643,487	869,774	876,627
借入金等利息支出	81,151	78,967	81,952	82,391	88,036
借入金等返済支出	1,269,286	1,848,858	2,037,442	1,929,872	1,522,262
施設関係支出	713,400	2,474,641	322,481	3,512,000	1,249,252
設備関係支出	142,636	424,061	190,279	1,805,364	589,497
資産運用支出	193,817	156,675	819	400,869	100,599
その他の支出	1,661,668	1,464,314	1,918,556	1,668,134	2,370,358
資金支出調整勘定	△348,723	△365,440	△381,774	△961,012	△537,649
翌年度繰越支払資金	5,349,469	5,245,726	5,751,807	3,005,992	3,590,003
支出の部合計	13,564,392	16,314,724	15,089,673	17,396,653	15,473,804

※千円未満を切り捨てて表示していますので合計が一致しない場合があります。

2. 事業活動収支計算書

事業活動収支計算書とは、経営状況を表すものであり学校法人会計基準において「当該会計年度の教育活動、教育活動以外および臨時的な収支ならびに基本金組入額を表示し均衡の状態を明らかにするために行う」と規定されております。

平成 30 年度は、新潟医療福祉大学における学科新設（平成 30 年度：診療放射線学科、平成 29 年度：救急救命学科）および既存学科定員増（平成 27 年度：健康スポーツ学科、平成 28 年度：理学療法学科）ならびに新潟食料農業大学の開学による学生生徒等納付金の増加を要因として教育活動収入計が 10%以上増加しました。

これらに伴う経費増の影響で収支差額としては減少しておりますが、計画通りのことであり特段問題ありません。

(単位：千円)

		科目	平成 26 年度	平成 27 年度	平成 28 年度	平成 29 年度	平成 30 年度
教育活動収支	事業収入	学生生徒等納付金	5,397,790	5,682,216	5,879,396	6,083,198	6,575,151
		手数料	111,274	101,370	124,398	136,853	136,904
		寄付金	87,936	96,073	107,172	101,804	105,908
		経常費等補助金	493,204	505,272	614,605	627,152	811,969
		付随事業収入	23,984	22,038	28,911	27,470	64,840
		雑収入	69,972	43,856	66,760	85,165	110,276
		教育活動収入計	6,184,161	6,450,827	6,821,245	7,061,643	7,805,051
	事業支出	人件費	2,635,516	2,742,417	2,901,304	3,055,315	3,464,842
		教育研究経費	2,095,015	2,329,199	2,407,515	2,826,308	3,173,628
		管理経費	498,585	615,758	694,395	923,184	942,720
徴収不能額等		13,197	2,871	1,384	1,578	750	
	教育活動支出計	5,242,315	5,690,247	6,004,599	6,806,386	7,581,941	
	教育活動収支差額	941,845	760,580	816,645	255,257	223,110	
教育活動外収支	事業収入	受取利息・配当金	3,412	13,985	28,079	21,166	5,649
		その他の教育活動外収入	4,248	4,229	9,202	19,291	4,506
		教育活動外収入計	7,660	18,215	37,282	40,457	10,155
	事業支出	借入金等利息	81,151	78,967	81,952	82,391	88,036
		その他の教育活動外支出	0	69,361	0	0	0
		教育活動外支出計	81,151	148,328	81,952	82,391	88,036
	教育活動外収支差額	△73,490	△130,113	△44,669	△41,934	△77,880	
	経常収支差額	868,355	630,467	771,975	213,323	145,229	
特別収支	収入	資産売却差額	14,093	6,102	78	0	0
		その他の特別収入	30,137	249,203	27,059	1,304,331	46,780
		特別収入計	44,230	255,306	27,138	1,304,331	46,780
	支出	資産処分差額	11,433	43,829	42,143	10,473	23,418
		特別支出計	11,433	43,829	42,143	10,473	23,418
	特別収支差額	32,797	211,476	△15,005	1,293,858	23,362	
	基本金組入前当年度収支差額	901,152	841,944	756,970	1,507,182	168,592	
	基本金組入額合計	△1,310,123	△1,630,212	△1,041,025	△4,445,686	△1,861,939	
	当年度収支差額	△408,970	△788,268	△284,054	△2,938,504	△1,693,347	
	前年度繰越収支差額	△1,173,296	△1,582,267	△2,370,536	△2,654,590	△5,593,095	
	基本金取崩額						
	翌年度繰越収支差額	△1,582,267	△2,370,536	△2,654,590	△5,593,095	△7,286,442	

※千円未満を切り捨てて表示していますので合計が一致しない場合があります。

3. 貸借対照表

貸借対照表とは、一定時点(3月末現在)の財産の状況を明らかにする計算書類であり、教育研究活動を行うために必要となる資産の保有状況とそれらの資産の取得源泉である負債、基本金および消費収支差額を対照して、その充足状態を計る仕組みです。

平成30年度は、新潟医療福祉大学での学科新設による設備投資が大きかったことから、資産規模は昨年度比647百万円、2.2%増となりました。負債は昨年度比478百万円、5.9%増、現金預金は昨年度比584百万円、19.4%の増となっており計画通りの状態であるといえます。

なお、流動負債のうち、1,303百万円は新生入生からの授業料等の前受金であり、新年度には学生生徒等納付金として収入に振り替えたうえで教育研究活動の費用に充てられていくものです。学校法人会計基準により負債へ算入していますが、弁済義務のあるものではありません。

(単位：千円)

科目 \ 年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度
資産の部					
有形固定資産	18,943,101	21,041,638	20,705,035	25,183,621	25,977,161
その他の固定資産	351,353	417,877	415,749	594,043	589,402
流動資産	5,464,945	5,369,454	5,858,812	3,909,709	3,767,547
資産の部合計	24,759,399	26,828,970	26,979,597	29,687,373	30,334,110

科目 \ 年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度
負債の部					
固定負債	4,292,450	5,415,897	4,780,876	5,096,327	5,787,217
流動負債	2,023,416	2,127,596	2,156,273	3,041,416	2,828,670
負債の部合計	6,315,867	7,543,493	6,937,150	8,137,744	8,615,888
純資産の部					
基本金	20,025,800	21,656,013	22,697,038	27,142,724	29,004,664
第1号基本金	19,711,800	21,275,013	22,316,038	26,761,724	28,502,664
第4号基本金	314,000	381,000	381,000	381,000	502,000
繰越収支差額	△1,582,267	△2,370,536	△2,654,590	△5,593,095	△7,286,442
純資産の部合計	18,443,532	19,285,476	20,042,447	21,549,629	21,718,221
負債及び純資産の部合計	24,759,399	26,828,970	26,979,597	29,687,373	30,334,110

※千円未満を切り捨てて表示していますので合計が一致しない場合があります。

(補足)

第1号基本金：設立当初に取得した固定資産ならびに設立後新たな学校の設置、学部学科の増設、定員や実員の拡大による規模の拡大および教育の充実向上のために取得した固定資産（校地、校舎、機器備品、図書等）の価額

第4号基本金：学校法人の円滑な運営に必要な保持すべき運転資金（基本金組入対象資産について「恒常的に保持すべき資金として別に文部科学大臣の定める額」）

4. 収益事業

平成 30 年度の不動産賃貸は、昨年度の契約から変動がなく学校会計への繰入額は 450 万円程となっており、本収益事業が学校に対して安定的貢献を図れているものといえます。

なお、収益事業に関する会計は、私立学校法で「学校の経営に関する会計から区分し、特別の会計として経理しなければならない」とされており、一般の企業会計同様に処理しております。また新潟医療福祉大学および事業創造大学院大学の各建物内の賃貸物件は、重要性を鑑みて損益状況のみを本収益事業会計の中で処理をし、資産については学校法人会計に含めて表示しています。

(1) 貸借対照表

(単位：千円)

科目 \ 年度	平成 26 年度	平成 27 年度	平成 28 年度	平成 29 年度	平成 30 年度
資産の部					
流動資産	0	0	0	0	0
固定資産					
有形固定資産	17,815	17,474	17,134	16,793	16,453
無形固定資産	0	0	0	0	
投資等	0	0	0	0	
繰延資産	0	0	0	0	
資産の部合計	17,815	17,474	17,134	16,793	16,453

科目 \ 年度	平成 26 年度	平成 27 年度	平成 28 年度	平成 29 年度	平成 30 年度
負債の部					
流動負債	0	0	0	0	
固定負債	190	190	190	190	190
負債の部合計	190	190	190	190	190
純資産の部					
元入金	19,631	19,631	19,631	19,631	19,290
利益剰余金	△2,005	△2,346	△2,686	△3,027	△3,027
純資産の部合計	17,625	17,284	16,944	16,603	16,263
負債・純資産の部合計	17,815	17,474	17,134	16,793	16,453

(2) 損益計算書

科目 \ 年度	平成 26 年度	平成 27 年度	平成 28 年度	平成 29 年度	平成 30 年度
売上高	4,561	4,561	4,917	5,274	5,274
売上原価	0	0	0	0	
売上総利益	4,561	4,561	4,917	5,274	5,274
販売費・一般管理費	4,901	4,901	5,258	5,614	5,274
営業利益	△340	△340	△340	△340	0
営業外損益	0	0	0	0	
経常利益	△340	△340	△340	△340	0
特別損益	0	0	0	0	0
当期純利益	△340	△340	△340	△340	0

※千円未満を切り捨てて表示していますので合計が一致しない場合があります。

財務比率一覧

学校法人新潟総合学園

分類	名称	計算式	目安	30年度
貸借対照表関係比率				
自己資金は充実しているか				
	純資産構成比率	純資産 ÷ (総負債 + 純資産)	△	71.6%
	繰越収支差額構成比率	繰越収支差額 ÷ (総負債 + 純資産)	△	-24.0%
	基本金比率	基本金 ÷ 基本金要組入額	△	82.1%
長期資金で固定資産は賄われているか				
	固定比率	固定資産 ÷ 純資産	▼	122.3%
	固定長期適合率	固定資産 ÷ (純資産 + 固定負債)	▼	96.6%
資産構成はどうか				
	固定資産構成比率	固定資産 ÷ 総資産	▼	87.6%
	有形固定資産構成比率	有形固定資産 ÷ 総資産	▼	85.6%
	特定資産構成比率	特定資産 ÷ 総資産	△	0.0%
	流動資産構成比率	流動資産 ÷ 総資産	△	12.4%
	減価償却比率(図書を除く)	減価償却累計額 ÷ 減価償却資産取得価額	～	49.0%
負債に備える資産が蓄積されているか				
	内部留保資産比率	(運用資産 - 総負債) ÷ 総資産	△	-15.4%
	運用資産余裕比率	(運用資産 - 外部負債) ÷ 経常支出	△	-43.7%
	流動比率	流動資産 ÷ 流動負債	△	133.2%
	前受金保有率	現金預金 ÷ 前受金	△	275.4%
	退職給与引当特定資産保有率	退職給与引当特定資産 ÷ 退職給与引当金	△	-
負債の割合はどうか				
	固定負債構成比率	固定負債 ÷ (総負債 + 純資産)	▼	19.1%
	流動負債構成比率	流動負債 ÷ (総負債 + 純資産)	▼	9.3%
	総負債比率	総負債 ÷ 総資産	▼	28.4%
	負債比率	総負債 ÷ 純資産	▼	39.7%
事業活動収支計算書関係比率				
経営状況はどうか				
	事業活動収支差額比率	基本金組入前当年度収支差額 ÷ 事業活動収入	△	2.1%
	経常収支差額比率	経常収支差額 ÷ 経常収入		1.9%
	教育活動収支差額比率	教育活動収支差額 ÷ 教育活動収入計		2.9%
収入構成はどうか				
	学生生徒等納付金比率	学生生徒等納付金 ÷ 経常収入	～	84.1%
	寄付金比率	寄付金 ÷ 事業活動収入	△	1.9%
	経常寄付金比率	教育活動収支の寄付金 ÷ 経常収入		1.4%
	補助金比率	補助金 ÷ 事業活動収入	△	10.3%
	経常補助金比率	教育活動収支の補助金 ÷ 経常収入		10.4%
支出構成は適切であるか				
	人件費比率	人件費 ÷ 経常収入	▼	44.3%
	教育研究経費比率	教育研究経費 ÷ 経常収入	△	40.6%
	管理経費比率	管理経費 ÷ 経常収入	▼	12.1%
	借入金等利息比率	借入金等利息 ÷ 経常収入	▼	1.1%
	基本金組入率	基本金組入額 ÷ 事業活動収入	△	23.7%
	減価償却額比率	減価償却額 ÷ 経常支出	～	14.0%
収入と支出のバランスはとれているか				
	人件費依存率	人件費 ÷ 学生生徒等納付金	▼	52.7%
	基本金組入後収支比率	事業活動支出 ÷ (事業活動収入 - 基本金組入額)	▼	128.2%

目安 △ 高い値が良い ▼ 低い値が良い ～ どちらもいえない